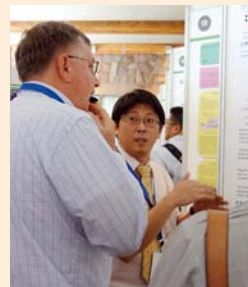


## 国際会議から

## 世界地震工学会議 16th WCEE

本会議は、地震工学に関する工学、理学、社会科学などの研究者が一堂に会する4年に1度の大規模な国際会議で、1956年から今回で16回目の開催となります。過去の会議でも、最新の数値解析法、実験結果、耐震設計法など多数の知見が発表され、今日の地震工学の発展に大きく寄与してきました。今回の会議でも2000件を超える論文投稿があり、5日間にわたって基調講演、口頭発表、ポスター発表が行われました。筆者も、鉄道総研で開発している新しい制震装置（負剛性摩擦ダンパー）について、解析および実験結果をポスター発表し、参加者との有意義なディスカッションを行いました。

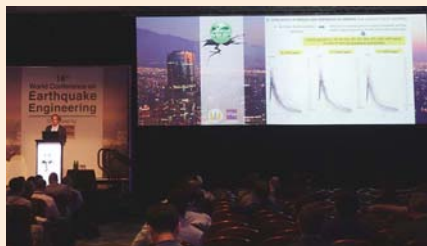
今回の開催国であるチリは、日本と同様に地震国であり、1960年には観測史上最大の地震が発生しています。この地震にともなうチリ地震津波が約一日後に日本にも到達して大きな被害をもたらし、この経験が後の国際的



ポスター発表を行う筆者

豊岡亮洋  
鉄道地震工学研究センター  
地震応答制御研究室  
主任研究員

な津波観測・警報網の整備につながりました。会議が開催されたサンティアゴ市は南米有数の都市で、とくに地下鉄は市内全域にネットワークを有し、市民生活に欠かせない重要な交通機関となっていました。なお、次回の会議は2020年に日本で開催予定です。



基調講演会場内の様子



遠くアンデス山脈を望む  
会場近くの市内中心部

正式名称：16th World Conference on  
Earthquake Engineering  
開催国：チリ（サンティアゴ）  
期間：2017/1/9 - 1/13  
主催：International Association for  
Earthquake Engineering  
開催頻度：4年に1回  
次回開催予定：2020年9月 日本（仙台）  
ホームページURL：<http://www.16wcee.com>